

保全に関する資料作成要領
【電気設備・機械設備編】

岡崎市 建築部施設保全課

初版 平成 26 年 4 月 30 日

1. 目的

保全に関する資料は、施設の概要、使用方法及び保全業務に必要な事項をまとめることで、施設が適正に使用及び保全されること、データの一元化と市有建築物の保全計画の作成資料とすることを目的とする。

2. 適用仕様書

国土交通大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（電気設備編・機械設備編）」「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備編・機械設備編）」最新版では次のとおり定められている。

(1) 完成図（竣工図）

工事完成時に図面による管理のため完成図（竣工図）を提出する。

(2) 保全に関する資料

工事完成時に施設維持管理のため保全に関する資料を提出する。

3. 完成図及び保全に関する資料の作成

(1) 資料の作成

① 完成図（竣工図・施工図）

工事を実施した箇所の完成図及び施工図を提出する。

② 建築物等の利用に関する説明書

(ア) 概要書

概要書は市指定様式（p.7～p.11 様式①参照）を使用し、計画通知書を提出した工事を対象とし各項目を入力し提出する。ただし、既存概要書のある施設は既存データを修正して作成する。

(イ) 自主点検チェックシート

自主点検チェックシートは市指定様式（p.12 様式②参照）で作成する。ただし、既存自主点検チェックシートのある施設は工事該当シートのみ作成する。

(ウ) 法定点検一覧表

法定点検一覧表は市指定様式（p.14 様式③参照）を使用し、計画通知書を提出した工事を対象とし法定点検等の業務該当項目に「○」を付けて提出する。

③ 保全部材プロット図（保全部材一覧表（p.18）を参照し、保全部材のみ提出）

主要な機器等を電気設備、衛生設備、空調設備の保全部材をプロットした配置図、各階平面図を作成する。保全部材プロット図は市指定様式（p.15 様式④参照）で作成する。ただし、既存データのある施設はデータの修正をする。

④ 主要な材料・機器一覧表

主要な材料・機器一覧表は市指定様式（p.16 様式⑤参照）を使用し、設計書の部材名称、規格等の各項目を基本として作成する。保全部材プロット記号は、「保全部材一覧表」及び「保全部材プロット図の書き方」（p.19）を参考として記入する。既存プロット図がある場合は既存番号を考慮して作成する。

⑤ 官公署届出書類

官公署に届出した文書及び許可証・複本等を提出する。電子データは、届出書等の鑑をスキャナーしたものと、文書及び図面等データを添付する。

⑤ 保守点検対象設備の部品更新計画

空調設備等の機器更新までに必要な部品交換の更新計画（p.17 参照）を作成する。

⑥ 保証書等

(ア) 機器完成図（メーカーの完成図）を提出する。

(イ) メーカー機器保証書又は受注者がまとめた保証書を提出する。

(ウ) 故障時緊急連絡先を提出する。

⑦ 機器取扱い説明書

メーカーの取扱説明書等を提出する。

⑧ 機器性能試験成績書

(ア) 機器の工業試験結果、耐圧試験等の試験結果を提出する。

(イ) 空調設備などの総合調整試験結果を提出する。

(2) 資料の内訳

作成する資料は、工事等の内容により発注者、受注者協議の上決定する。

- ① 新築、増築の場合
- ② 大規模改修、全体的な設備機器等の更新・改修の場合
- ③ 上記①②以外の改修、設備機器等の更新・改修の場合

表1 保全に関する資料の内訳

書類名	工事分類	新築、増築	大規模改修等	左記以外の改修等
① 完成図（竣工図・施工図）		●	●	●
② 建築物等の利用に関する説明書	(ア) 概要書	△	△	△
	(イ) 自主点検チェックシート	●	●	○
	(ウ) 法定点検一覧表	△	△	△
③ 保全部材プロット図		●	●	○
④ 主要な材料・機器一覧表		●	●	○
⑤ 官公署届出書類		○	○	○
⑥ 保守点検対象設備の部品更新計画		○	○	○
⑦ 保証書等		○	○	○
⑧ 機器取扱い説明書		○	○	○
⑨ 機器性能試験成績書		○	○	○

※●は必須で作成すること。

※△は計画通知書を提出した場合に作成すること。

※○は発注者・受注者で協議し必要なものを作成すること。

4. 完成図及び保全に関する資料の提出

(1) 提出部数

- ①紙で印刷した保全に関する資料（A4ファイル綴じ） **1部**
- ②電子データの保全に関する資料（CD-R又はDVD-R） **2部**

(2) 提出方法

表2 保全に関する資料の提出

書類名	提出資料	紙（A4ファイル）	電子データ（CD-R等）
① 完成図（竣工図・施工図）		※製本版作成	○
②建築物等の利用に関する説明書	(ア) 概要書	○	○
	(イ) 自主点検チェックシート	○	○
	(ウ) 法定点検一覧表	○	○
③ 保全部材プロット図		○	○
④ 主要な材料・機器一覧表		○	○
⑤ 官公署届出書類		○	○
⑥ 保守点検対象設備の部品更新計画		○	○
⑦ 保証書等		○	○
⑧ 機器取扱い説明書		○	—
⑨ 機器性能試験成績書		○	—

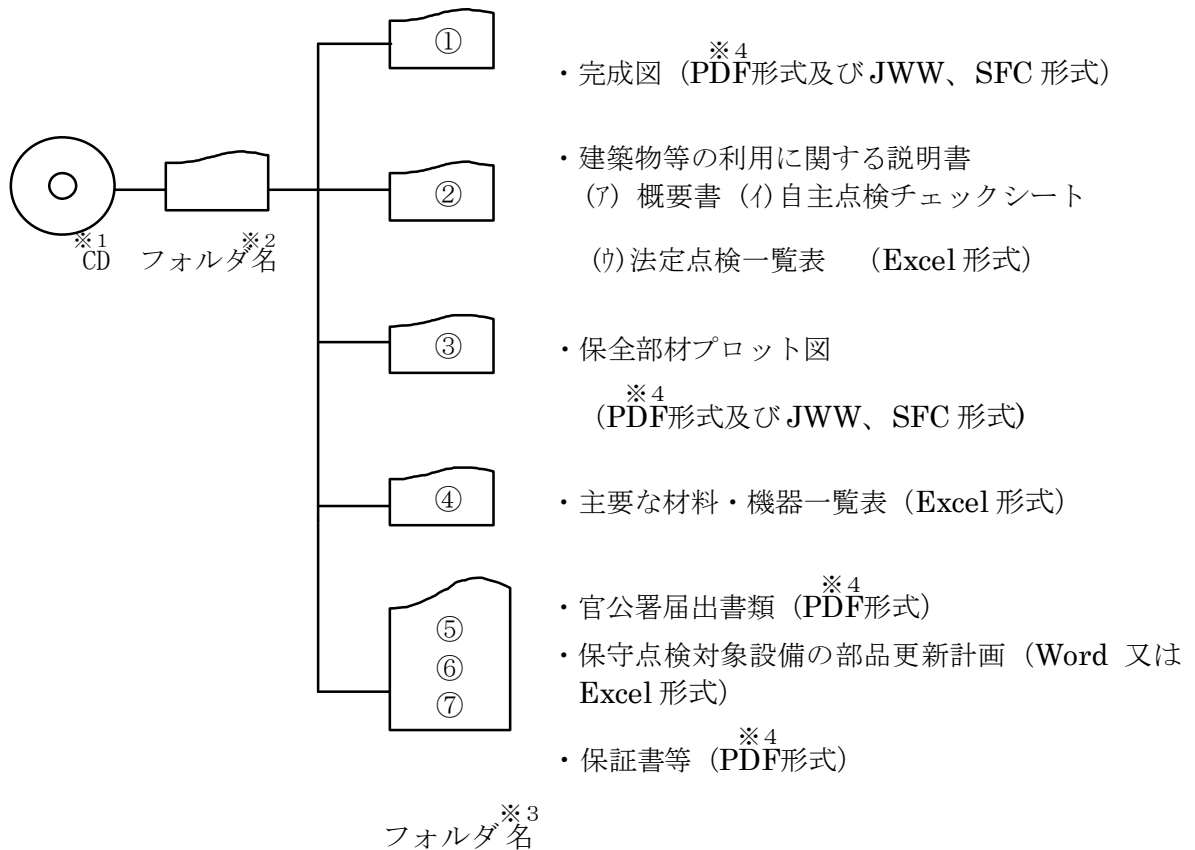
※保全に関する資料はA4サイズの書類を基本とする。ただし、保全部材プロット図はA3サイズとする。

※保全部材プロット図は三角スケールで計測できる縮尺とする。（例：1/100,1/150,1/200 etc.）

※施設をまとめて発注している場合は、施設毎に分けて作成すること。

※完成図の製本サイズ及び部数は、監督職員の指示による。

電子データのフォルダ構成は以下による。



※1 CDのボリュームラベルは「発注年度（西暦）＋保全に関する資料」とする。

※2 フォルダ名は「発注年度（西暦）＋工事名」とする。また、複数施設をまとめて発注している場合はそれぞれ施設毎にフォルダを作成すること。

※3 フォルダ名は、保全に関する資料の提出（4. (2)表 2）の書類名とする。ただし、⑤、⑥、⑦は「その他」フォルダにまとめること。

※4 PDFファイルの完成図及び各種書類は、複数のファイルを1つのファイルに結合すること。

（3）CD-R又はDVD-R記入例

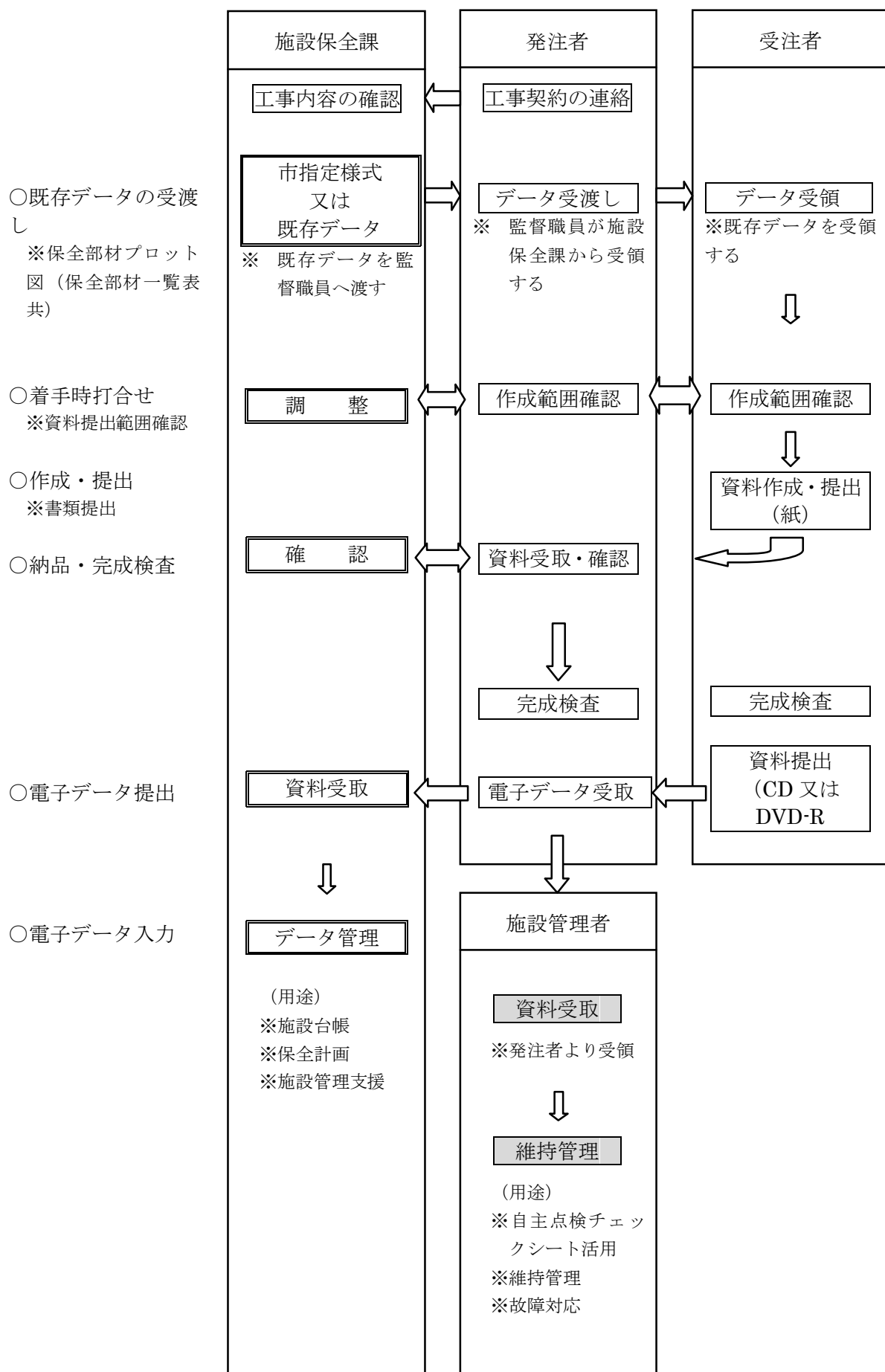
CD-R又はDVD-Rには以下の情報を直接印字するか、先がフェルトの油性ペン等でディスクを傷つけないように直接書き入れる。

- （ア）工事名称
- （イ）施設名称（施設が複数のものはすべて明記すること）
- （ウ）作成年月
- （エ）発注者名
- （オ）受注者名
- （カ）何枚目／総枚数

図1 CD-R又はDVD-R記入例



5. 保全に関する資料作成フロー(契約後)



6. 保全に関する資料 <紙提出作成例>

保全に関する資料

岡崎市〇〇〇工事

着工日 平成26年〇〇月〇〇日

完成日 平成26年〇〇月〇〇日

設計		株式会社	〇〇〇〇設計事務所
施工	電気設備	〇〇〇〇	株式会社
	給排水衛生設備	〇〇〇〇	株式会社

目 次

- ① 完成図
- ② 建築物等の利用に関する説明書
 - (ア)概要書
 - (イ)自主点検チェックリスト
 - (ウ)法定点検一覧表
- ③ 保全部材プロット図
- ④ 主要な材料・機器一覧表
- ⑤ 官公署届出書類
- ⑥ 保守点検対象設備の部品更新計画
- ⑦ 保証書等
- ⑧ 機器取扱い説明書
- ⑨ 機器性能試験成績書

① 完成図 ※別冊

② 建築物等の利用に関する説明書

(7)概要書（参考）※建物概要、設備概要のシートを選択して着色部分の該当する部分のみ入力して作成

建物概要									
概要									
施設コード									
施設名称									
建物コード									
建物名称									
建物正式名称									
住所 〒									
交通手段									
から バス 分 徒歩 分									
から バス 分 徒歩 分									
から バス 分 徒歩 分									
主用途									
副用途1 面積比 %									
副用途2 面積比 %									
建物管理部署 担当者									
TEL									
契約日									
完成日									
法定耐用年数 年 経過年数 年									
残存法定耐用年数 年									
使用予定年数 年 残存使用予定年数 年									
使用予定年数後に 建設費補正率 %									
建替工事年数 年 解体工事費率 %									
面積 建築面積 m ² 延床面積 m ² 容積対象面積 m ²									
階数 地上階数 階 地下階数 階 搭屋階数 階									
最高高さ m 軒高 m									
構造									
地業									
設計者・監理者									
建築 連絡先									
電気 連絡先									
空調 連絡先									
衛生 連絡先									
搬送 連絡先									
駐車 連絡先									
外構 連絡先									
施工者									
建築 連絡先									
電気 連絡先									
空調 連絡先									
衛生 連絡先									
搬送 連絡先									
駐車 連絡先									
外構 連絡先									
管理会社									
連絡先									
ビル管理法 ☐ 対象建物									
12条点検 ☒ 対象建物									
☐ 特殊建築									
☐ 建築設備									
☐ 昇降機									
エネルギー管理指定工場									
種別									
指定番号									
管理者									
管理員									
建物重要度 (以下省略)									

様式①

該当する項目を■にする

建物概要

様式①

価格

固定資産番号

事務所税 ☐ 課税対象

資産形態 所有比率 %

所有者

所有者名	連絡先
------	-----

取得経緯

工事費		
建築	円	円/m ²
電気	円	円/m ²
空調	円	円/m ²
衛生	円	円/m ²
搬送	円	円/m ²
小計	円	円/m ²
駐車	円	
外構	円	
合計	円	

評価
(以下省略)

設備概要

様式①

施設名称

建物名称

建物管理部署

電気設備

更新:

受変電

受電方式	φ Hz	W	kV	備考
	☐ 1回線	☐ 2回線	☐ 特別高圧受電	
電気室	☐ 屋外キュービクル	☐ 屋内キュービクル	☐ SNW	備考
変圧器（特高）	総kVA	総台数	☐ 開放型	備考
	☐ 乾式	☐ 油入	☐ ガス	
変圧器（高圧／動力）	総kVA	総台数		備考
	☐ 乾式	☐ 油入		
変圧器（高圧／電灯）	総kVA	総台数		備考
	☐ 乾式	☐ 油入		
低圧引込	☐ 動力用	☐ 一般用		備考

補助電源

ディーゼル	☐ ディーゼル	φ V	W 総kVA	備考
	☐ 非常用	☐ 常用（モ/シ）	☐ コージェネ	
ガスタービン	☐ ガスタービン	φ V	W 総kVA	備考
	☐ 非常用	☐ 常用（モ/シ）	☐ コージェネ	
ガスエンジン	☐ ガスエンジン	φ V	W 総kVA	備考
	☐ 非常用	☐ 常用（モ/シ）	☐ コージェネ	
燃料電池	☐ 非常用	φ 総kVA	W 総台数	V 備考
	☐ 非常用	☐ 常用（モ/シ）	☐ コージェネ	
太陽光発電		φ 総kW	W 総台数	V 備考
風力発電		φ 総kW	W 総台数	V 備考
蓄電池		V	総AH	備考
UPS	☐ 鉛	☐ アルカリ	W 総kVA	V 備考
	☐ HSE	☐ MSE		

照明

ランプ	☐ 白熱灯	☐ FL蛍光灯	☐ HF蛍光灯	備考
	☐ HID	☐ LED		
制御	☐ リモコン	☐ 照明制御	☐ 昼光利用	備考
	☐ 太陽光採光			

コンセント

	☐ コンセント	☐ 配管	☐ フロアダクト	備考
	☐ トラダクト	☐ OAフロア		

情報通信

電話	☐ 電話交換機	☐ IPフォン	☐ 携帯・PHS	備考
テレビ共聴	☐ UV	☐ BS	☐ CS	備考
	☐ 地上波デジタル	☐ CATV		
その他	☐ 中央監視	☐ 駐車場管制	☐ 表示装置	備考
	☐ 入退室管理	☐ 機械警備	☐ ITV	
	☐ 放送	☐ 電気時計	☐ ナースコール	
	☐ AV(映像・音響)			

防災

	☐ 自火報	☐ 防排煙	☐ ガス漏れ火災警報	備考
	☐ 誘導灯	☐ 非常照明		

その他

	☐ 避雷針	☐ 舞台関係	☐ プロヒーティング	備考
	☐ ロードヒーティング			

備考

設備概要

様式①

施設名称

建物名称

建物管理部署

空調設備

更新:

熱源

中央熱源 1		総能力		単位		燃料	
						備考	
中央熱源 2		総能力		単位		燃料	
						備考	
中央熱源 3		総能力		単位		燃料	
						備考	
中央熱源 4		総能力		単位		燃料	
						備考	
中央熱源 5		総能力		単位		燃料	
						備考	
個別熱源 1		総能力		単位		燃料	
						備考	
個別熱源 2		総能力		単位		燃料	
						備考	
蓄熱	☐ 水蓄熱 ☐ 氷蓄熱 ☐ 潜熱蓄熱						備考
	☐ 躯体蓄熱 ☐ 土壌蓄熱						備考
その他	☐ 地域冷暖房 ☐ 未利用エネルギー活用						備考

空調

空調機器 1							備考
空調機器 2							備考
空調機器 3							備考
空調機器 4							備考
空調方式	☐ 単一ダクト ☐ 単一ダクト可変風量 ☐ 単一ダクト+FCU						備考
	☐ 天井カセット ☐ 隠蔽 ☐ 床置 ☐ 放熱/輻射暖房						
空気搬送	☐ CAV ☐ VAV ☐ 低温送風						備考
冷温水搬送	☐ CWV ☐ VWV ☐ 大温度差搬送						備考
外気制御	☐ 外気冷房 ☐ OACット ☐ 全熱交換器						備考
	☐ ナイトバージ ☐ クールチューブ						

換気

☐ 天井扇 ☐ 全熱交換換気扇 ☐ 厨房フード	備考
--	----

排煙

☐ 自然排煙 ☐ 機械排煙	備考
---	----

その他

☐ 中央監視 ☐ ロードヒーティング	備考
--	----

備考

設備概要

施設名称

建物名称

建物管理部署

衛生設備 更新:

給水

方式	☐ 直圧式	☐ 重力式	☐ ポンプ圧送式	備考
水源	☐ 市水	☐ 工業用水	☐ 井水	備考
節水	☐ 節水こま	☐ 節水型大便器	☐ 感知式自動水栓	備考

給湯

中央		備考
個別		備考

排水

屋内		備考
屋外		備考

排水処理

☐ 浄化槽	☐ 下水	☐ 汲み取り	備考
☐ 特殊排水			

消火

☐ 屋内消火栓	☐ 屋外消火栓	☐ スプリンクラ	備考
☐ 水噴霧	☐ 泡消火	☐ ハロン消火	
☐ CO2消火	☐ 連結送水管	☐ 連結散水	
☐ ダクト付消火	☐ その他		

特殊設備

☐ 雨水利用	☐ 医療ガス	☐ 厨房設備	備考
☐ 噴水・池	☐ プール	☐ 中央集塵	
☐ 焼却炉設備			

燃料

種類	☐ 都市ガス	☐ L P G	備考
	☐ 重油	☐ 灯油	☐ 軽油

備考

設備概要

施設名称

建物名称

建物管理部署

搬送設備 更新:

搬送設備

エレベータ（ロープ）		台	備考
エレベータ（油圧）		台	備考
ダムウェータ		台	備考
エスカレータ		台	備考
機械駐車		台	備考

備考

給水設備	受水タンク(受水槽)	3-4-1
□機能等の解説 受水タンクは、水道本管から導入した水を貯留する水槽をいいます。 ポンプで高置タンクに揚水した後、又は直接ポンプで建物各所に給水します。 □仕上・工法等の解説 主にステンレス製、FRP製が多く使用されています。 □その他 古い建物では、建物地下部分のコンクリート躯体を水槽として使用している場合があります。 様式② 現地に合わせた写真に差替え ステンレス製  ステンレス製  FRP製  FRP製 		
維持管理 のポイント	□ 機器本体に腐食、損傷、漏水等はありませんか □ 基礎、固定部に亀裂、損傷、ボルトの緩み等はありませんか □ 架台、タラップに腐食、損傷等はありませんか □ 機器廻り配管、弁類に腐食、損傷、漏れ、作動不良等はありませんか □ 蓋の施錠に支障はありませんか □ オーバーフロー管から水がでていませんか □ 防虫網の目詰まり、損傷等はありませんか □ 内部に異物は混入していませんか □ 保守点検会社から異常、不良等の報告はありませんか	
法的規制 法令根拠	建築物における衛生的環境の確保に関する法律(ビル管法) 水道法 建築基準法(第12条の点検 1回/1年)	
用語解説	オーバーフロー管 タンクからあふれた水を排水する管 高置タンク ⇒3-4-2 参照	

(イ)自主点検チェックシート〔チェックシート〕（参考）※工事範囲から該当シートを選択して作成

給水設備		受水タンク(受水槽)		3-4-1	
チェックポイント		年 月 日	年 月 日	年 月 日	年 月 日
☐ 機器本体に腐食、損傷、漏水等はありませんか					
☐ 基礎、固定部に亀裂、損傷、ボルトの緩み等はありませんか					
☐ 架台、タラップに腐食、損傷等はありませんか					
☐ 機器廻り配管、弁類に腐食、損傷、漏れ、作動不良等はありませんか					
☐ 蓋の施錠に支障はありませんか					
☐ オーバーフロー管から水がでていませんか					
☐ 防虫網の目詰まり、損傷等はありませんか					
☐ 内部に異物は混入していませんか					
☐ 保守点検会社から異常、不良等の報告はありませんか					
事故・故障及びその措置の履歴					
年 月 日					
年 月 日					
年 月 日					
年 月 日					
写真は貼付しない（施設管理者が不具合時に状況がわかる写真を貼付する）					
現 状 写 真					
年 月 日			年 月 日		
年 月 日			年 月 日		

(ウ)法定点検一覧表（参考） ※法定点検一覧を使用し該当項目に「○」を付す

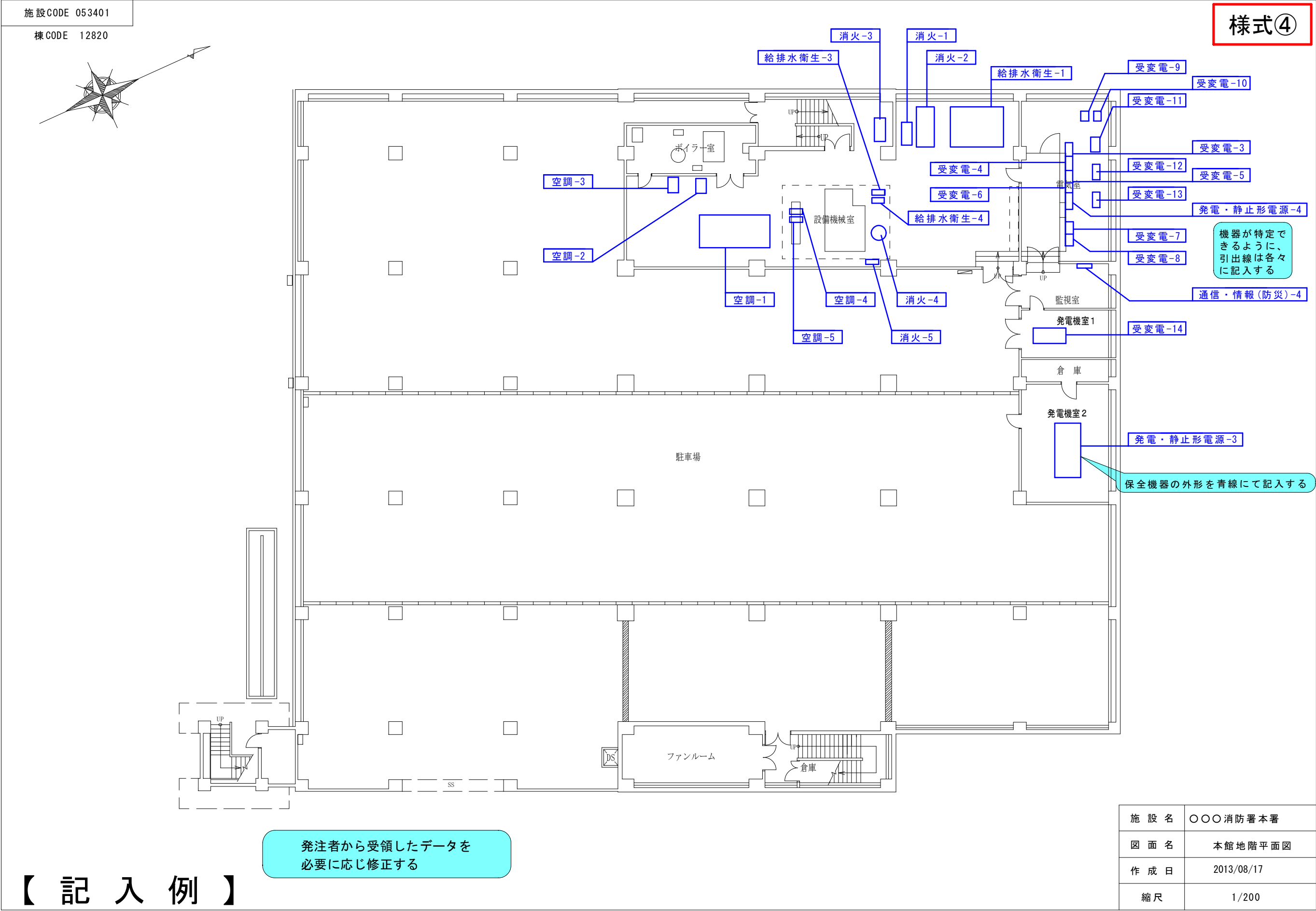
法定点検一覧

点検等の対象	設備等の点検等の対象	点検内容	点検回数	※対象に○を付す	規 定 法 規
消防用設備	防火対象物に設けられている消防用設備等	機器点検	6月1回		・消防法第17条の3の3 ・消防庁告示（昭和50年第3号）
危険物	指定数量の10倍以上の危険物を取扱う一般取扱所及び地下タンクを有する一般取扱所	総合点検	年1回		・消防法第14条の3の2、危険物の規制に関する政令第8条の5、第62条の4
ボイラー	ボイラー（小型ボイラー除く）	性能検査	1年以内ごとに1回		・労働安全衛生法第41条、第45条・ボイラー及び压力容器安全規則第32条、第38条、第67条、第73条、第88条、第94条
	小型ボイラー	定期自主検査	1月以内ごとに1回		
压力容器	第1種压力容器（小型压力容器除く）	性能検査	1年以内ごとに1回		・労働安全衛生法第41条、第45条・ボイラー及び压力容器安全規則第32条、第38条、第67条、第73条、第88条、第94条
	定期自主検査	定期自主検査	1月以内ごとに1回		
	小型压力容器、第2種压力容器				
エレベーター	工場設置の積載荷重1トン以上	性能検査	1年以内ごとに1回		・労働安全衛生法第41条、第45条
	定期自主検査	定期自主検査	1月以内ごとに1回		・クレーン等の安全規則第154条、159条
	工場設置の積載荷重0.25t以上1t未満	定期自主検査	1年以内ごとに行う		
	昇降機	定期点検	1年以内ごとに行う		・建築基準法第12条
事務所		作業環境測定	2月以内ごとに1回		・労働安全衛生法第65条事務所衛生基準規則第7条、第9条、第10条、第15条
		機械換気設備定期点検	2月以内ごとに1回		
		照明設備定期点検	6月以内ごとに1回		
		定期清掃	6月以内ごとに1回		
		ねずみ、昆虫等の防除	6月以内ごとに1回		
特定建築物		空気環境の測定	2月以内ごとに1回		・建築物における衛生的環境の確保に関する法律第4条
		遊離残留塩素の検査	7日以内ごとに1回		・同施行規則第3条、第4条、第4条の2～第4条の5
		飲料水質の検査	6月以内ごとに1回		
		貯水タンクの清掃	1年以内ごとに1回		
		定期清掃	6月以内ごとに1回		
		ねずみ、昆虫等の防除	6月以内ごとに1回		
冷凍機	1日の冷凍能力が20t（フロンガスの場合50t）以上の高圧ガスを用いる冷凍機のうち特定施設	保安検査	3年1回以上		・高圧ガス保安法第35条
	1日の冷凍能力が20t（フロンガスの場合50t）以上の高圧ガスを用いる冷凍機等	自主点検	年1回		
ばい煙発生施設	ボイラー （伝熱面積10㎡以上又はバーナーの燃料の燃焼能力が重油換算1時間当たり50ℓ以上） 廃棄物焼却炉 （火炉子面積2㎡以上又は焼却能力が1時間当たり200kg以上） ガスタービン、ディーゼル機関 （燃料の燃焼能力が重油換算1時間当たり50ℓ以上）	ばい煙量、濃度測定	2月に1回以上		・大気汚染防止法第2条、第16条 ・同施行規則第15条
簡易専用水道	水槽の有効容量の合計が10㎡を超えるもの	水槽の清掃	1年以内ごとに1回		・水道法第34条の2
		外観検査	1年以内ごとに1回		
		水質、書類検査	1年以内ごとに1回		
特定施設	特定施設 （処理対象人員が500人を超えるし尿浄化槽、300床以上の病院の厨房施設、洗浄施設、入浴施設、業務の用に供する部分の総床面積が420㎡以上の飲食店の厨房施設等） 指定地域特定施設 （処理対象人員が201人以上500人以下のし尿浄化槽）	排水水の測定			・水質汚濁防止法第14条 ・同施行規則
		400㎡以上	毎日		
		200㎡以上400㎡未満	7日に1回以上		
		100㎡以上200㎡未満	14日に1回以上		
		50㎡以上100㎡未満	30日に1回以上		
事業用電気工作物	特別高圧受変電設備、高圧受変電設備、二次変電設備、自家発電設備	保安規定を定め自主定期点検	—		・電気事業法第42条
ガス湯沸器及び排気筒	ガス湯沸器及びガスふろがま（不完全燃焼時に当該機器へのガスの供給を自動的に遮断し燃焼を停止する機能を有するものと認められるもの及び開閉燃焼式のものであって特定ガス消費機器の設置工事の監督に関する法律第6条に規定する表示がされているもの等を除く。）並びにこれらの排気筒及び排気筒に接続される排気扇。	消費機器の技術上の基準	3年1回以上		・ガス事業法第40条の2 ・同施行規則第84条
建築物		建築点検	3年以内ごとに行う		・建築基準法第12条
		設備点検	1年以内ごとに行う		・同施行規則第5条、第6条
し尿浄化槽		水質検査	年1回		・浄化槽法第8条～11条
		清掃	全ばっ気方式6月1回 その他年1回		・同施行規則第6条、第7条、第9条
		保守点検	年1回 但し特例有		

様式③

法定点検が必要な項目に「○」を記入

③保全プロット図（参考）



様式⑤

〇〇〇消防署本署

保全部材プロット図を参考に保全部材プロット記号を記入する
保全部材以外は空白とする。

- 16 -

⑥ 保守点検対象設備の部品更新計画（参考）※様式は自由

保守点検対象設備の部品更新計画（参考）

部位	部品名	項目	点検頻度	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033
					1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	11年目	12年目	13年目	14年目	15年目	16年目	17年目	18年目	19年目	20年目
ポンプ類	冷媒ポンプ	定期交換	5～7年毎						●					●					●					○
	低温吸収液ポンプ	定期交換							●					●					●					○
	高温吸収液ポンプ	定期交換							●					●					●					○
真空部関係	パラジウムセル	定期交換	3～5年毎				●			●			●			●			●			●		○
	冷媒電磁弁	定期交換	5～7年毎						●					●					●					○
	真空弁等	定期交換	5年毎						●					●					●					○
冷温水系	冷温水系伝熱管	フラッシング	5～10年毎						●					●					●					○
		交換	10年毎											●										○
冷却水系	冷却水系伝熱管	フラッシング	5～10年毎						●					●										○
		交換	10年毎											●										○
制御盤	制御盤交換	定期交換	5～10年毎						●					●					●					○
安全装置	スイッチ類	定期交換	3～5年毎				●			●			●			●			●			●		○
制御装置	サーミスタ、センサ類	定期交換					●			●			●			●			●			●		○
燃焼装置	バーナーモータ	定期交換	5～7年毎						●															○
	ガス遮断弁	定期交換	7～10年毎								●							●						○
	コントローラモータ	定期交換	5年毎						●					●					●					○
	炎検出器	定期交換	3～5年毎				●																	○
	点火トランス等	定期交換	7～10年毎								●							●						○

凡例 ●: 部品交換時期
○: 機器更新推奨時期

⑦ 保証書等（参考）※様式はメーカー等標準のもの

⑧ 機器取扱い説明書 ※様式は自由

⑨ 機器性能試験成績書 ※様式は自由

○保全部材一覧【電気設備・機械設備】

保全工事種別	プロット記号	耐用年数区分	主要な材料・機器一覧表に記載する名称
		耐用年数	
高圧受電設備改修工事	受変電	30	開閉器(引込み)/AOG・SOG
			高圧ケーブル(引込み)
			函/キュービクル式
			盤/用途
			変圧器/用途
発電設備改修工事	発電・静止形電源	30	原動機/燃料
30		発電機/燃料	
直流電源設備改修工事		20	直流電源主装置(盤)
交流無停電電源設備改修工事			交流電源主装置(盤)
自動火災報知設備改修工事	通信・情報(防災)	25	自火報受信機
自火報副受信機			
自火報主装置(連動制御盤)			
ガス漏火災警報受信機			
非常警報設備改修工事		20	非常警報主装置
非常放送主装置			
空調熱源設備改修工事	空調	20	熱源機/冷温水・チンク・ユニット・ボイラー
ポンプ/冷・暖			
冷却塔/材			
中央監視（自動制御機）設備改修工事	自動制御	20	自動制御主装置
給排水衛生設備（便所）改修工事	便所	30	便所/ヶ所数
給排水衛生設備（槽等）改修工事	給排水衛生	15	ポンプ/揚水・加圧・ボイラー・循環
		30	（材）槽/受水槽 or 高架水槽
			給湯ボイラー(集中)
屋内消火栓設備改修工事	消火	30	ポンプ・ユニット(制御盤)/消火栓
（材）槽/消火栓			
スプリンクラー設備改修工事		30	ポンプ・ユニット(制御盤)/スプリンクラー
			流水検知装置/スプリンクラー
			一斉開放弁/スプリンクラー
			（材）槽/スプリンクラー
			連結金具(送水口)/スプリンクラー
泡消火設備改修工事		30	ポンプ・ユニット(制御盤)/泡消火
			流水検知装置/泡消火
			一斉開放弁/泡消火
			（材）槽/泡消火
			連結金具(送水口)/泡消火
ガス消火設備改修工事		30	起動装置(制御盤)/ガス消火
			容器弁・貯蔵容器/ガス消火
			選択弁/ガス消火
昇降機設備改修工事	昇降機	30	エレベーター
			エスカレーター
構内交換設備改修工事	通信・情報	20	構内交換主装置

保全部材プロット図に
記入するプロット記号

○保全部材プロット図の書き方【電気設備・機械設備】

◎保全部材のみを記入する。

※主要な材料・機器一覧表のプロット記号と合わせる。

※プロット図は発注者から受領したデータを使用する。

※C A D図面の用紙設定はA 3サイズとすること。

《便所》

- ・**便所-1**、**便所-2**をプロット図に垂直方向に同一配管系統ごとに**青線**で囲み記入

《受変電設備》

- ・**受変電-1**、**受変電-2**をプロット図に保全機器の外形を**青線**にて記入

(受変電盤、配電盤、変圧器、函、開閉器、ケーブル〔引込み〕)

《発電・静止形電源》

- ・**発電・静止形電源-1**、**発電・静止形電源-2**をプロット図に保全機器の外形を**青線**にて記入(発電機、交流電源主装置、蓄電池)

《通信・情報(防災)設備》

- ・**通信・情報(防災)-1**、**通信・情報(防災)-2**をプロット図に保全機器の外形を**青線**にて記入(自動火災報知設備、非常放送主装置)

《給排水衛生設備》

- ・**給排水衛生-1**、**給排水衛生-2**をプロット図に保全機器の外形を**青線**にて記入(受水槽、高架水槽、揚水ポンプ、加圧ポンプ)

《空調設備》

- ・**空調-1**、**空調-2**をプロット図に保全機器の外形を**青線**にて記入(冷却塔、冷温水発生器、冷却ポンプ、冷温水ポンプ)

《昇降機設備》

- ・**昇降機-1**、**昇降機-2**をプロット図に保全機器の外形を**青線**にて記入(エレベータ、エスカレータ)

保全に関する資料作成要領【設備編】

初版 平成 26 年 4 月 30 日 発行

岡崎市 建築部施設保全課